バス見学「水戸八景を学び・訪ねる旅」

第 14 回楽習会行事は、水戸藩徳川斉昭が選んだ水戸藩領内の景勝地「水戸八景」を巡り、斉昭直筆の石碑を訪ね、斉昭を学ぶ、日帰りバスツアー「水戸八景を学び・訪ねる旅」を 10 月 24 日に実施した。

見学地は、常陸太田市栄町(太田落雁)～西山研修所(山寺晩鐘)～水戸市青柳(青柳夜雨)～偕楽園(偃湖暮雪)～昼食(県庁ひばり)～大洗願入寺裏(巌船夕照)～那珂湊支所(水門帰帆)～村松虚空蔵尊裏(村松晴嵐)を回る道順とした。今回は、涸沼湖畔キャンプ場にある「広浦秋月」の碑は、時間的余裕がなく、見学地から除いた。

当日は、秋雨前線中休み、日立駅(海岸口)を定刻に出発。国道6号線のバス停から石名坂で全員乗車、最初の見学地、「太田落雁」の碑に向かった。常陸太田パルティホール駐車場から東側崖の高台に向かい、少し歩いた所にあった。良く整備されており、眼下には新しい市街地、田畑の向こうには阿武隈山地、真弓山が望めた。ここで特別ゲストの詩吟の会の皆さんによる「水戸八景」を吟じて頂き、眼下に素晴らしい歌声が響き渡った。次の「山寺晩鐘」の碑は、西山研修所敷地内の東南の高台にあった。常陸太田から水戸市青柳へ、那珂川に架かる万代橋の袂にある柳の大木の根本にある「青柳夜雨」の碑があった。碑の形状は、今までの物と異なり、丸みを帯びた黒灰色の自然石であった。次は常磐神社下の市営駐車場へバスを進め、偕楽園の東門より入場して、千波湖を望む南崖の見晴らし広場から階段を下りた所に「偃湖暮雪」の碑があり、碑の形状は将棋の駒の様で高さは約1m 程度であった。昼食を取るために、県庁西駐車場へと観光バスを進めた。県庁の食堂ひばりで昼食、ビュフェ形式で定食から麺、洋食と種類が多くあり、低価格で食べることができた。食後は、県庁 25 階展望台から関東平野を一望できる大パノラマを楽しんだ。午後からは、大洗の願入寺の裏手にある「巌船夕照」の碑を見学するため、観光バスが駐車できる「かんぽの宿大洗」へと道を進めた。駐車場からしばらく歩いて，涸沼川と那珂川が合流する東側の高台に碑はあった。碑から眺める対岸の那珂湊の景観は素晴らしかった。つづいて、ひたちなか市那珂湊支所の近くにあり、那珂湊漁港を見下ろせる高台にある「水門帰帆」の碑を見学した。最後の見学場所「村松晴嵐」の碑は、村松虚空蔵尊の裏手の高台の砂丘にあった。周囲は松林となっていて、当時は見ることが出来たであろう太平洋を眺めることができなかった。見学後、国道 245 号を北上し、日立港入口を左折して、国道 6 号へ進み、石名坂から、乗車場所各バス停で各自降車して、予定通りに日立駅(海岸口)に戻った。今回の運行工程は、事前に下見をしていたので、スムーズに進み、無事に予定通りの運行が出来たこと、参加者の皆さんに喜んで頂いたバス見学であった。　（参加者 33 人）　（井上　和美）

以上

「太田落雁」碑の前で詩吟「水戸八景」を吟じる

朗々とした詩吟に聞き入る参加者

詩吟の会の皆さんと参加者

「太田落雁」碑の前で記念写真

西山研修所内の「山寺晩鐘」碑

「山寺晩鐘」碑を見学中(1)

「山寺晩鐘」碑を見学中(2)

「山寺晩鐘」碑の説明案内板

「青柳夜雨」碑を見学中(1)

「青柳夜雨」碑を見学中(2)

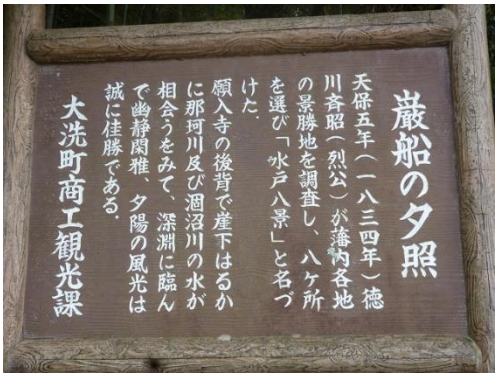
「青柳夜雨」碑と説明案内板

「青柳夜雨」碑前で記念写真

「僊湖暮雪」碑の案内説明板

偕楽園内の南崖にある「僊湖暮雪」碑

千波湖を見下ろす「僊湖暮雪」碑を見学中



「巌船夕照」碑の案内説明板

那珂川河口を見下ろす「巌船夕照」碑

「巌船夕照」碑より那珂川河口を望む

「巌船夕照」 碑前で記念撮影

那珂湊漁港を見下ろす「水門帰帆」碑

「水門帰帆」碑を見学中の参加者

「水門帰帆」碑前で記念撮影(1)

「水門帰帆」碑前で記念撮影(2)

村松虚空蔵尊裏手高台の「村松晴嵐」碑

「水戸八景」の説明案内板

「村松晴嵐」碑の案内説明板

「村松晴嵐」碑の前で記念撮影(1)

「村松晴嵐」碑の前で記念撮影(2)

「村松晴嵐」碑の前で記念撮影(3)